



編集方針

富士通グループ環境経営報告書は、富士通グループとして初めて環境活動、経済的側面、社会的側面における3つの要素について、それぞれの考え方や取り組みを記述し、企業情報の開示を積極的に行うことを目的としています。特に環境活動については、目標、計画、実績について、グラフやフロー図などで詳細に記述しステークホルダーの方々へわかりやすくまとめて記述するよう努めました。2003年版は、当社における環境負荷の実態、環境保全への取組状況、環境技術の研究開発状況、環境リスク管理の状況などに対する対策・実績およびその分析内容の掲載を中心に作成しています。しかしながら、一部実績データについては、グループにおける記載がデータ集計範囲の関係から困難な部分もあり、日本国内だけの情報や富士通単独の実績として記載している部分もあります。この点は、今後の課題として認識しています。

作成にあたっては、記載内容の信頼性確保をめざし、GRI〔Global Reporting Initiative〕サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン¹、および環境省の「環境報告書ガイドライン」、経済産業省の「環境レポーティングガイドライン」を参照するとともに、第三者機関「株式会社 新日本環境品質研究所」による審査を実施し審査報告書をいただいています。

本報告書は、皆さまと富士通グループの双方向のコミュニケーション・ツールとしていきたいと考えています。今後も、さらに読みやすい環境経営報告書となるように努めながら、毎年1回定期的に発行していく予定ですので、巻末のアンケートへのご意見をお聞かせください。

【集計期間】

本報告書は、2002年度の富士通の環境活動を中心に、経済的側面、社会的側面における活動とともに記載しています。記載しているデータは、その実測値となります。また、一部2003年6月までの考え方や取り組み、活動データなどを含んでいます。

- ・ GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」
www.globalreporting.org/guidelines/2002/2002Japanese.pdf
- ・ 環境省「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」
www.env.go.jp/policy/report/h12-02/all.pdf
- ・ 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン(2002年度版)」
www.env.go.jp/policy/report/h15-01/
- ・ 経済産業省「ステークホルダー重視による環境レポーティングガイドライン2001」
www.meti.go.jp/policy/eco_business/houkokusho/guideline2001.pdf

FUJITSU概要	1
ごあいさつ	3
企業統治/組織・ビジョン/ The FUJITSU Way	4
富士通におけるサステナビリティの考え方	5

〔環境保全活動〕

地球環境に貢献できること (グリーンライフ21 すべてをグリーンに)	7
富士通グループ環境方針/ 環境推進組織・会議	9
第3期富士通環境行動計画	10
事業活動と環境負荷	11
環境マネジメントシステム	13
環境会計	15
従業員環境啓発	17
グリーン調達	18
グリーン製品の開発	19
物流における取り組み	24
製品リサイクル対策	25
グリーンプロセス	27
工場環境保全	28
省エネルギー対策(地球温暖化対策)	29
廃棄物ゼロエミッション (廃棄物減量化対策)	31
化学物質の削減	33
ソフトウェア・サービスによる環境貢献	35
@EcoVISION	37

〔経済的責任〕

主要財務データ等	39
----------	----

〔社会的責任〕

社会貢献活動(地域・社会との関わり)	41
社会貢献活動(カスタマー・フォーカス)	42
環境コミュニケーション	43
環境社会貢献活動	45
リスク対策	49
人事・教育制度	51
安全衛生/健康支援	53

〔資料編〕

環境パフォーマンスデータ	55
富士通の沿革	59
社外表彰・評価/用語説明	60
第三者審査報告書	61
アンケートFAX用紙	62